

2. 片品村の担い手確保と産地活性化支援

(対象：利根沼田農業事務所旧普及指導課)

【評価できる点】

- ダイコン栽培からの品目転換や経営安定対策など、産地の現状と問題点を把握した的確な課題設定である。
- 新規の基盤整備を行い、トマトに活路を見いだしている事がよくわかるし、それに対する後押しを感じる。
- トマトの経営類型の作成は、新規就農者の定着支援の観点から、とても良い取組である。粗利のイメージがあるとさらによい。
- 立地を活かしたアジサイの安定出荷や、土地改良による圃場整備が確実に生産基盤としての活用が見込まれている点は非常に評価できる
- 産地を活性化するために、多方面にわたり一生懸命取り組み、効果的に成果を上げている。
- 支援事項ごとの活動内容はきめ細やかで、支援対象者に寄り添った伴走型によるフォローの姿勢が見受けられる。目標達成に向けた成果も得られており、その活動は高く評価することができる。

【改善・強化に向けた検討事項（意見・要望と対応策）】

1 課題や目標設定に関すること

【意見・要望】

担い手確保や産地活性化は、一つの方策だけでどうにかなるものではないので、他産地の取組も参考にして対応してほしい。

【回答】

1990年以降（平成2年）、高原ダイコンの価格、品質低迷の中、普及指導課が主導になり地域特性を生かした品目導入や方策を打ち出してきました。その中で、雨よけトマトと花卉等の振興を進め、20年近くかけブランドとして定着しました。産地も成熟してきており、最近は危機感が足りない部分が気になります。ご指摘のとおり、他産地の取組等も参考にして今後さらに産地活性化に取り組んでいきたいと思えます。

【意見・要望】

担い手の受入体制整備にあたっては、当初の必要性和実態との間に乖離があったことも伺えたので、今後の計画策定時の現状把握を進める際には参考とした上で、取組を進めて欲しい。

【回答】

ご指摘のとおり、中山間地域の担い手対策は重要な課題と捉えております。

村の体制が変わったことにより、一時、担い手の受入体制整備が今までの仕組みの様に機能しなくなったことがあります。現在は、以前の協力体制に戻りつつあります。今後も引き続き安定して機能できる体制を整えていきたいと思えます。

今回、農業用水施設が整備されたことにより、参入する地域農業を支える担い手の生産性と安定的に収益性を向上させることにより、中山間地域農業を推進しつつ産地維持につなげていきます。

【意見・要望】

全体的にはこれまでの継続として活動している印象。取組施策の新しい方向性を打ち出すことも必要と考える。

【回答】

1990年以降（平成2年）の高原ダイコンの低迷に対応するため、全く新しい方向性を打ち出した結果、今回の取組につながっています。

ご指摘のとおり、牛の平の雨よけトマトについては、トマト振興の発展型として土地改良事業を行っていますが、取組当初から10年程度はかかってしまうものとなっていますので、これまでの継続活動という印象が強くなってしまっています。

次回の計画には、新たな展開が期待できるので、引き続き、関係機関と連携しながら、新しい取組施策を入れていきます。

2 活動内容に関すること

【意見・要望】

尾瀬リンゴを活用した魅力ある産地オリジナル商品の開発にはまだ余地があると思うので、今後の展開に期待したい。

【回答】

「尾瀬リンゴ」を活用した統一ブランド商品の開発については、個々の生産者だけでは難しい加工製品づくりなどの課題を産地が一体となって取り組んできました。

今後は栽培面積の拡大を進めながら、産地認知度の向上のため、片品村ブランドとして販売戦略支援と消費者ニーズに応じた販売会や産地PR支援にも力を入れていきたいと考えています。

【意見・要望】

優良事例が多数出てきており、これを横展開するよう進めていただきたい。

【回答】

地域特性を生かした品目の導入や、牛の平地域の土地改良事業、産地オリジナル品種の育成・導入など、次世代へ繋ぐ中山間地農業の基盤をつくり、関係機関が連

携して就農者を支援したことは、他地域でも参考になる事例として、県内にアピールするとともに、横展開できるように、要望があれば事例発表や協力をしていきたいと考えています。